

平成22年度 お茶の水女子大学経営協議会（第2回）議事録

日 時：平成22年6月8日（火）15：00～17：00

場 所：お茶の水女子大学 大学本館2階 第一会議室（213室）

出席者：（学外委員）足立委員、池田委員、槍田委員、小倉委員、小野委員、  
北村委員、國井委員

（学内委員）羽入学長、戒能理事、河村理事、  
近藤副学長、吉田副学長

（その他）桐村監事、山田監事、香西財務室長、大塚総合評価室長、  
内藤学生支援室長

1. 開会

2. 前回〔平成22年3月15日（月）、4月20日（火）〕議事録（案）の確認

○修正等がある場合は、本日から一週間位までの間に、総務チームまで連絡することとした。

3. 審議事項

（1）平成21事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

○総務機構長より、平成21事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告について、【資料3】に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

（2）平成21年度決算について

○総務機構長より、平成21年度決算について、【資料4-1】～【4-8】に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

（3）平成23年度概算要求について

○総務機構長より、平成23年度概算要求について、【資料5】に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

（4）育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部改正等に伴う規則等の改正について

○総務機構長より、育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部改正に伴う本学における仕事と子育ての両立支援策について、【資料6】に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

#### 4. 報告事項

##### (1) 競争的資金等の受入状況について

○国際・研究機構長より、平成 22 年度競争的資金等の受入状況について、【資料 7】に基づき、平成 22 年度科学研究費補助金交付内定状況に係る新規採択率が 35%、全国 13 位であること、文系の新規採択率が 44%であること等の報告があった。

##### (2) いずみナーサリー（保育所）の利用者数について

○総務機構長より、平成 22 年 4 月～6 月のいずみナーサリー（保育所）の利用者数について、【資料 8】に基づき、平成 21 年度第 4 回の経営協議会において承認された保育料の引下げの効果として利用者が増えたことの報告があった。

##### (3) 平成 21 年度卒業生・修了者の就職状況について

○学生支援チームリーダーより、平成 21 年度卒業生・修了者の就職状況について、【資料 9】に基づき、学部卒業生、大学院博士前期課程修了者とも、進学者、就職希望者の就職率が低下したこと、その他（卒業、修了後の情報がない場合等）が増加したことから、在学生及び卒業生に対する新たな就職支援策を検討することの報告があった。

##### (4) その他

○学術・情報機構長より、平成 21 年度の各教員の教育研究活動についての活動報告である『*Annual Report 2009*』を刊行したことの報告があった。

○国際・研究機構長より、外部委員よりご意見をいただいた「留学生のネットワークづくり」について、国際本部を中心に現在、タイでの留学生のネットワークづくりに向けて活動していること、さらに、中国での留学生のネットワークづくりを検討していることの報告があった。

○学長より、外部委員よりご意見をいただいた「入学時成績優秀者奨学金授与者の追跡調査」について、同制度を廃止し、新たに平成 23 年度の入学者から対象となる「予約型奨学金制度」を創設したこと、本制度の社会的影響などについては、次回報告することの報告があった。

また、「広報戦略」については、次回以降に報告することの報告があった。

■学外委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・概算要求では大学の教育研究が本来自由であるべきことを念頭に、大学の特色を強く打ち出したものとしていただきたい。
- ・大卒者が短期間で転職する例が多い現実を考えると、女子大の特性を生かし、お茶大が卒業生に対し、卒業後も支援するというメッセージを出していくことを検討していただきたい。
- ・お茶大の卒業生は、企業内での同窓のつながりが弱い、社会で活躍する卒業生を知らないという現実を考えると、大学を起点としたネットワークづくりが必要である。
- ・企業でのお茶大卒業生は優等生というイメージがある。明るく溶け込んでいくというタイプではなく、物静かに自己完結するタイプの人が多い。これはお茶大的カルチャーに関わることであるので、お茶大と就業に関する文化風土をテーマにした研究を進め、お茶大的カルチャーを変えていくことが必要である。
- ・一般にはお茶大はエリート校であり、国立の師範学校というイメージで見られているので、特徴的な研究等、お茶大に対する固定概念を壊すようなものを出していくことで、外の見え目が変わり、連動して教職員も変化していくと思う。
- ・お茶大の得意分野である女性のライフスタイルや労働についての研究成果を公表していくことによりお茶大カラーが出ると思う。
- ・お茶大がポジティブアクションを先導的に行うことを期待している。

○学長より、次回以降の開催予定について、【資料10】に基づき説明があり、次回開催は、平成22年10月18日（月）15時からであることを確認した。

以 上